

東成鋼管



藤澤鉄工所は「東成G T E X」に社名を変更した

藤澤鉄工所の全株取得

長野・東海など拠点拡大

鋼管販売や超精密金属管製造の東成鋼管（本社＝東京都中央区、岡部耕喜社長）はこのほど、ホイラー、圧力容器および各種タンクの設計・製作・据付・配管などの関連工事を担う藤澤鉄工所（本社＝岐阜県各務原市、藤澤正治社長）の全株式を取得し、3月28日付で完全子会社化した。藤澤社長は取締役顧問に就き、岡部社長が同社社長を兼務する。これにより東成鋼管は仙台、古河、浦安に加え、長野（エヌ・ワイ産業）、岐阜に拠点を拡大し、付加価値の高い鋼管製品をはじめ金属加工製品のニーズに幅広く対応する。

グループ売上高50億円に

東成鋼管がM&Aにより子会社化した藤澤鉄工所は4月1日付で社名を「東成G T E X（ジーテックス）」と変更した。G T E Xは「エネルギー・クロール」の「G」、T E L L ナクノロジーの「T E」、X管グループ3社で売上高は50億円規模となる。設計・技術系社員、営業・現場社員15人はそのまま新会社に在籍する。エヌ・ワイ産業を含めた東成鋼管グループは1925年（大正14年）創業の老

舗金属加工メーカー。ホイラー、圧力容器、各種タンクなどの設計・製作を担い、化学、石油、食品、医薬、航空機器向けなどに金属加工製品を供給してきた。各種溶接機をはじめ、プラスチック切断機、シャーリング、300トプレス機、曲げ加工機、加熱炉も保有する。仲介業者を通じて岡部社長と藤澤社長が協議を重ね、藤澤鉄工所が東成鋼管グループとして事業を継承することとなった。

東成鋼管としては北海道から東海三県までの営業エリアを持つこととなり、自動車・トラック・建産機・土木建築・公共事業向けのメーカー品鋼管販売、マイクロ公差対応の超精密金属管製造をはじめ、エヌ・ワイ産業の溶接加工品、東成G T

E Xの圧力容器・特殊加工品・大径肉厚鋼管製造と商品パリエーションが広がる。溶接や高圧ガス特殊技能を持った社員もそのまま残るため、社員の多様化にもつながる。岡部社長は「取引先が大きい広がる。また水素やアンモニアに対応したタンクなど脱炭

素にも貢献する事業を手掛けることで業務が拡大し、付加価値の高い金属製品を提供できると買取の意義を強調した。